

ささやき

コミュニケーションすることとは

医師 於保 未玲

精神科医として働き始め、はや1年が過ぎようとしています。この1年間はつらいこと、楽しいこと、難しいことなど様々な感情を揺り動かされた1年間であり、中でも琵琶湖病院での勤務は当初かなりの驚きをもって始まったものの、今では私の精神科医としての中核を成す重要な1つとなっています。スタッフの層の厚さにも度々感心し、患者さんと接することで、学ぶことが多い毎日となっております。この1年間は本当に多くの方の話を聞き、患者さんに対しては稚拙ながら治療を施してきました。

しかし最近思うのですが、私は人の話を理解し、的確な返答を与えているのであろうか？すでに自分の頭の中は固定化された思考回路となっていて、それから外れるものはなかなか理解できず、また理解しようとししないのではないだろうか。そのことに気づきつつも、なかなか矯正できず反省の毎日となっております。真のコミュニケーションをするということはかなりの難題であると感じております。聴覚障害を持つ患者さんとの面談は数えるほどしかないのですが、非常に難しかったと記憶しています。患者さんの言いたいことを理解できたか、こちらの言葉が伝わったか、実感が持てなかったのです。しかし、本当はとくに構える必要は無く、問題の本質は人とコミュニケーションをとるということにあるでしょう。

聴覚障害を持つ患者さんとの面談ではかえってそのことが浮き彫りになり、医療者はコミュニケーションの真髄を意識するのであると考えます。コミュニケーションの本来意味することを見失わず、今後の診療に当たっていきいたいと考えております。



最近のトピックス

5月22～23日、愛媛県松山市において第30回日本コミュニケーション障害学会が開催され、医師の藤田が「聴覚障害者との精神医療の現場におけるコミュニケーション」と題して教育講演を行いました。この学会は言語聴覚士を中心に構成されています。

7月17～18日、難聴幼児通園施設熊本県ひばり園で医師の藤田が、職員らを対象の研修会と父兄や関係者らが参加した療育講座で「聞こえないで育つこと - 聴覚障害者の診療を通して見えてくるもの」をテーマに講演を行いました。

「ろうの患者さんへのグループ・カウンセリング」を本年7月より始めました。毎月1回、3月まで計10回実施します。対象の患者さんは当院に通院中で、主治医の推薦がある人です。詳しいことを知りたい場合は、心理士・古賀までお問い合わせ下さい。

見学者

8月6日、大阪医療福祉専門学校・理学療法士科 第一学年 河野 裕さん

『初めまして』

下坂 知栄美

私が聞こえない皆様とお付き合いさせて頂くようになって、丸11年になります。最初の頃はとにかく手話を覚えなければと思っていました。私の所属する心理・相談室では朝の申し送りを手話で行います。電車通勤の私は毎朝電車の中で申し送りの予行練習を一生懸命していました。指文字は好きな歌に合わせて手を動かして覚えました。

そんな私も聞こえない患者さんの担当をすることになり、ひよんなことからその方と病棟内で「手話の勉強会」というグループ活動を行うことになりました。初めはその方が仲良くなりたい人を誘って挨拶等の簡単な手話や、その方がよく使う手話を教えてもらったりしていました。そのうち手話だけでなく、喫茶店に行ったりトランプをしたりと色々な活動を通して聞こえない方たちと慣れ親しんでいくようになりました。その体験を通して聞こえないことの不自由さや手話だけがコミュニケーションの方法ではないことを学びました。

今では病棟の中で手話を使う光景は当たり前となっています。患者さん、スタッフに関係なく、手話がダメなら口話、それでもダメなら筆談で、と悪戦苦闘しながら、一生懸命相手に伝えようとする姿勢をよく見かけます。やはり、伝えたいという気持ちが大切なのだろうなと感心しながらその光景を眺めたりしています。

そういう私も聞こえない方達とのコミュニケーションはまだまだ不十分なのですが、これからも様々な出会いの中で多くのことを皆と一緒に学んでいけたらいいなと思っています。



【編集後記】

夏まっさかり！！ 暑い日が続きますが

暴飲暴食にならないように、体調には十分に気をつけましょう。（は）

『私にとっての手話』

能登谷 慶子

私の周りには聴覚障害の方はおられず、今まで手話とは無縁に過ごしてきました。しかし、本院に就職し、聴覚障害の方と接することも多々ありました。そして、私自身の関わりや職員との関わりを間近にして、会話の難しさ、意思疎通の困難を痛切に思い知りました。また、身振り手振りや筆談などの中でも、手話という手段がより適した方法で、対等であると思えました。

手話は、お互いの理解があれば、会話が円滑にはかれます。身振り手振りとは違い、ズレが生じることでも幾分減ると思います。また筆談に必要な道具がなくても会話がはじめられます。

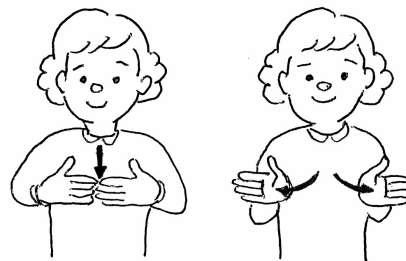
私は手話をはじめて、まだ一年も経っておらず、自分が実際に手話を通じて会話ができるのか、自信は全くないです。けれど、少しずつでも手話をもっと身に付けていきたいと思っています。

これから先、手話を必要とする機会に出会い、自分が何らかのお役に立てばうれしく思います。これからもご指導をお願いします。

～わんぽいんと手話～

バリアフリー

両手で障壁を取り除くという意味を表しています。



両手指先を付け合わせ下におろす

同時に指先を左右に開く